いすみ市がめざす「あきらめのない」地域づくり

～環境を守り、自立した地域を目指す～

いすみ市長　太田　洋

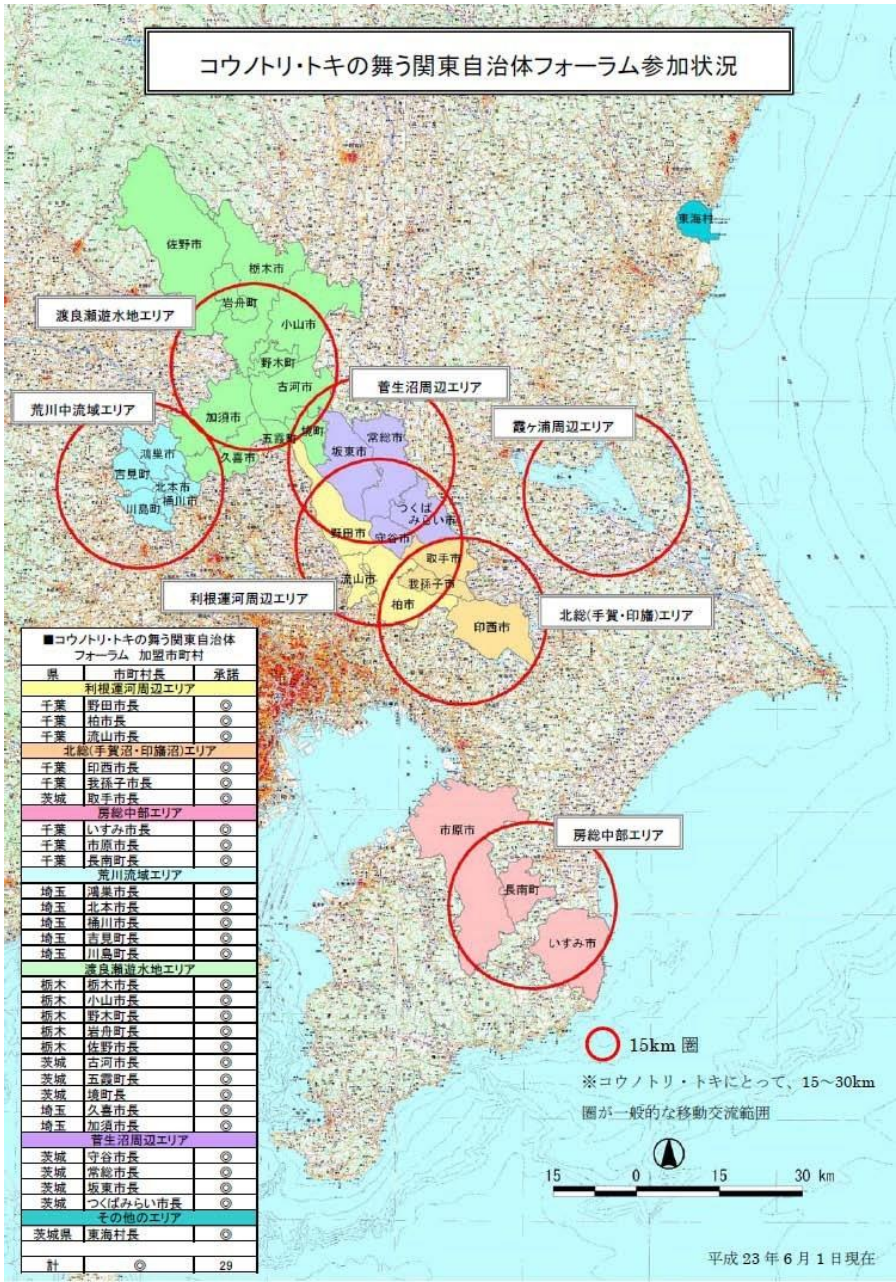
万木城址から田園を望む

■里山と里海をつなぐ夷隅川（いすみがわ）

■コウノトリとの出会い

いすみ市は役員自治体として、房総中部エリアで活動の一躍を担う

2010年、野田市、小山市、鴻巣市の３市が中心となり、７つのエリアにその範囲を広げ、趣旨に賛同する自治が集まり「コウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくり」の一大ムーブメントを引き起こす原動力として、「コウノトリ・トキが舞う関東自治体フォーラム」を設立しました。フォーラムの目的は、多様な主体の協働・連携によりコウノトリ・トキの野生復帰を通じたエコロジカル・ネットワークの形成を図り、地域の振興と経済の活性化を促す魅力的な地域づくりを実現させることです。



■コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム　加盟市町村

県	市町村長	承諾
利根運河周辺エリア		
千葉	野田市長	◎
千葉	柏市長	◎
千葉	流山市長	◎
北総(手賀沼・印旛沼)エリア		
千葉	印西市長	◎
千葉	我孫子市長	◎
茨城	取手市長	◎
房総中部エリア		
千葉	いすみ市長	◎
千葉	市原市長	◎
千葉	長南町長	◎
荒川流域エリア		
埼玉	鴻巣市長	◎
埼玉	北本市長	◎
埼玉	桶川市長	◎
埼玉	吉見町長	◎
埼玉	川島町長	◎
渡良瀬遊水地エリア		
栃木	栃木市長	◎
栃木	小山市長	◎
栃木	野木町長	◎
栃木	岩舟町長	◎
栃木	佐野市長	◎
茨城	古河市長	◎
茨城	五霞町長	◎
茨城	境町長	◎
埼玉	久喜市長	◎
埼玉	加須市長	◎
菅生沼周辺エリア		
茨城	守谷市長	◎
茨城	常総市長	◎
茨城	坂東市長	◎
茨城	つくばみらい市長	◎
その他のエリア		
茨城県	東海村長	◎
計	◎	29

■いすみ市の米づくりの現状と不安

◆米価の下落（60kg一等米）
1996年　18,300円
2022年　10,500円　約43%下落

◆農家の高齢化
65歳以上の割合　いすみ市　76%
全国平均　65%

生産意欲の減退　⇒　離農者の増加

耕作放棄地の増加　⇒　里山の荒廃

野生鳥獣の増加

景観の悪化

コミュニティの衰退

“田んぼは地域の守り神”

■米づくりをあきらめないために

新嘗祭御新穀供御耕作田田植祭　1929年6月

かずさくによし

いすみ米（旧 上総国吉米）

戦前から良質米として、東京神田、深川正米市場で高値で取引される

いすみ米の品質を支えているのは、夷隅川流域に広がるマグネシウムを多く含む粘質土壌。「夷隅統（いすみとう）」と呼ばれている

千葉の三大銘柄に数えられるが、首都圏や全国での認知はかなり低い

■自然と共生する里づくり連絡協議会を設立、協働の輪を広げる

いすみ生物多様性戦略　2015年策定

自然と共生する里づくり連絡協議会　2012年設立

会長:いすみ市副市長　副会長:JAいすみ組合長

- 自然環境保全・生物多様性連絡部会　2012年設置　事務局:いすみ市農林課
- 環境保全型農業(水稲) 連絡部会　2012年設置　事務局:いすみ市農林課
- 地域経済振興連絡部会　2013年設置　事務局:いすみ市水産商工観光課
- 有機野菜連絡部会　2018年設置　事務局:いすみ市農林課

先導的プロジェクト　有機稲作の推進　2014年～
有機園芸の推進　2018年～

コウノトリ

●環境創造活動のシンボル
●生物多様性保全の指標種

◆協議会の主な取組

- 食・農・環境教育
- ブランド化推進
- 体験活動
- 都市農村交流
- 実証試験
- 普及・啓発

第5回生物の多様性を育む農業国際会議(ICEBA)2018inいすみ

■コウノトリの里から有機の里へ シンポジウムの開催

第1回自然と共生する里づくりシンポ　2013年2月

第2回自然と共生する里づくりシンポ　2014年3月

第4回自然と共生する里づくりシンポ　2016年7月

第5回生物の多様性を育む農業国際会議　2018年7月

■有機米づくりへの挑戦と失敗

やせ我慢の無農薬栽培では続かない、広がらない

■有機稲作　稲葉先生との出会い

NPO法人民間稲作研究所
理事長

いなば　みつくに
稲葉　光國　先生

東京教育大学大学院農学研究科修士課程修了。
1997年民間稲作研究所設立、1999年～理事長。
「有機農業技術支援センター及び有機種子供給センター」を開設。
兵庫県豊岡市「コウノトリと共生する水田づくり水田再生事業」受託。
千葉県いすみ市より有機稲作の技術支援の依頼を受け、学校給食有機米100%実現を支援。
2017年～「ブータン王国での循環型有機農業の普及による地域創成事業」実施。

■収穫された有機米を学校給食に導入

●安心・安全なお米を子どもたちに提供したい
●子どもたちに地域の農業や環境のことを知ってもらいたい

年度	有機米導入量	割合
2015	4t	11%
2016	16t	40%
2017	28t	70%
2018	42t	100%
2019	42t	100%

全国に先駆け、学校給食のお米を全て有機米に

食育の推進

有機農産物の消費拡大

有機農産物の生産拡大

地域イメージの向上

持続可能性、循環型社会への転換を促進

■いすみ市版　生物多様性戦略の策定

「いすみ生物多様性戦略」の７つの対策の柱と重点事業

市民の皆さんから寄せられた生物多様性にかかわる課題と取組に関するご意見（463 件）をもとに、7 つの対策の柱を立て、各対策ごとに複数の取組事業（全 186 件）を策定しました。そしてさらにその中から以下の重点事業（38 件）を設けました。

環境改善の分野

1 里山里海の自然・文化の保護・保全

（事業件数41、重点5）

◇ウミガメを守り育てる活動の推進
◇コウノトリが生息できる自然環境の整備
◇国指定天然記念物「ミヤコタナゴ」生息地の保全
◇希少生物保護のための基金設立の検討
◇夷隅川河口湿地の保全と再生

2 里山里海の放棄・荒廃地の再生・管理

（事業件数48、重点6）

◇自然と共生する里づくりモデル水田事業
◇自然と共生する里づくり
◇環境保全型農業の推進
◇環境保全型農業と経済の自立促進・支援
◇環境保全型農業基盤の整備促進
◇小・中学校での「生物多様性教育」

3 外来生物・野生鳥獣害の防除・管理

（事業件数16、重点2）

◇「いすみ市外来生物・野生鳥獣害対策協議会（仮称）」を設置
◇千葉県生物多様性センター等との連携・協力

普及・利用の分野

4 地域環境や先人の知恵の学び・継承

（事業件数21、重点5）

◇「いすみ生物多様性先人の知恵物語（仮称）」の作成
◇いすみ市の生物多様性に関するカリキュラムの開発と各学年の教育課程への位置づけ
◇各小学校に水田ビオトープの創出と水田の生きもの観察・調査
◇生物多様性の保全と持続可能な里山里海の暮らしについての講座開催
◇いすみ子育てジャンボリー（幼児と保護者）の開催

5 生命感じる自立・循環のライフスタイル

（事業件数15、重点3）

◇学校給食での有機米・有機農産物の使用
◇水田ビオトープ・学校区の子ども自然体験フィールドの確保
◇空き家バンクの運営

6 生物多様性を活かした産業創造

（事業件数37、重点12）

◇人もコウノトリも暮らせる農村環境整備の推進によるいすみブランドの確立
◇食味が自慢の「いすみ米」ブランドの創出
◇化学肥料・農薬使用を低減した環境にやさしい農業による農産物のブランド化の推進
◇いすみブランドづくりの推進
◇新規水産加工品の発掘支援
◇加工品の付加価値を高めた水産物のブランド化の促進強化
◇食を中心の新たな観光の推進
◇「生物多様性を活かした産業創造懇談会（仮称）」の設置
◇都市住民を対象としたツーリズムの推進
◇産地直送による全国を視野に入れた消費拡大と販路拡大の検討
◇新たな観光資源の発掘といすみブランドの創出・育成・強化
◇いすみ市の食材を活用した食事メニューの開発

基盤整備の分野

7 生物多様性を担う組織・拠点の設置

（事業件数8、重点5）

◇生物多様性いすみステーション（仮称）の設置と運用
◇生物多様性いすみステーション（仮称）によるNPOや市民との連携活動促進
◇生物多様性いすみステーション（仮称）による千葉県生物多様性センターやいすみ環境と文化のさと、大学、研究所などとの連携
◇生物多様性いすみステーション（仮称）による「庁内いすみ生物多様性戦略連絡会議」の運営
◇いすみ生物多様性戦略にかかる施策の推進

スナメリ

コハクチョウ

ミヤコタナゴ

アカウミガメ

生物多様性のコメ作り

市民の役割

市民の方々には、生物多様性の恵みが私達の生活を支えていることを理解し、生物多様性に配慮したライフスタイルを実践することが望まれます。また、家族や特に子どもたちへ自然の大切さを伝え、自然や生きものとのふれあいの場づくりをはじめ、地域内外でのさまざまな生物多様性の保全・再生の活動に参加することが期待されます。

■有機米づくりの成功と未来への光

いすみ市の経営事例　令和5年度

名前	Iさん(70代)	農事組合法人M	Kさん(30代)
有機参入年数	9年目	11年目	5年目
経営面積	7ha	15ha	17ha
有機稲作面積	3.1ha	3.7ha	4.7ha
有機平均反収＊米選1.85㎜	442kg	505kg	417kg
販売収入 有機米部分のみ ※JAS有機認証(転換期間中を除く)は、有機栽培3年目以降の圃場で取得	☆JAへ販売 （JAS有機） 23,000円×195.5俵 （特栽＜無農薬＞） 20,000円×36俵 合計522万円	☆JAへ販売 （JAS有機） 23,000円×206.5俵 （特栽＜無農薬＞） 20,000円×34俵 計543万円 ☆小売 （特栽＜無農薬＞） 37,000円×70俵 計259万円 合計802万円	☆JAへ販売 （JAS有機） 23,000円×205俵 （特栽＜無農薬＞） 20,000円×80俵 計632万円 ☆小売店へ販売 （特栽＜無農薬＞） ？円×37.5俵 計？万円 合計632＋？万円
環境直接支払(1.2万円/10a)	**372,000円**	**444,000円**	**564,000円**

■有機米のブランド化

子どもたちの未来を支えるお米

Japan Airlines adopted the rice as in-flight meals of first class (2016)
日本航空ファーストクラス機内食に採用

■子どもたちへの環境学習と都市住民との農業体験

いすみ教育ファーム　田植え

いすみ教育ファーム　生きもの調査

いすみ米オーナー　田植え

いすみ米オーナー　稲刈り

■生産から買い上げの仕組みと生産の展望

環境保全型農業連絡部会

（市内水稲農家の有機米生産部会）

【事務局】
いすみ市農林課

23,000円/60kg

【関係機関】
夷隅農業事務所
JAいすみ

20,000円/60kg

●有機米づくりの研究と実践

●統一栽培暦・施肥基準に基づく栽培

JAいすみ

【集荷・販売】
JAいすみ
営農指導販売課

●**有機JAS認証取得米**
玄米出荷
精白米(有機JAS小分け事業者)出荷

●**特別栽培米(農薬・化学肥料栽培期間中不使用)**
玄米出荷
精白米出荷

精米業者

- 生協大手
- GS大手
- 中食
- 学校給食センター
- 食品メーカー
- 有機農産物卸
- 直売所
- 消費者

有機JAS 玄米　特栽 玄米　有機JAS 精白米　特栽 精白米

■慣行農業といすみっこの収支比較

○JAいすみ集荷額（R5年産）

コシヒカリ（慣行）	12,500円/俵
いすみっこ（無農薬）　※有機栽培1、2年目	20,000円/俵
いすみっこ（有機JAS）※有機栽培3年目～	23,000円/俵

○生産費（労働費込み）

慣行稲作の全国平均（R3年）	約15,000円/俵
有機稲作（農研機構）	約19,000円/俵
いすみ市※除草機の補助があるため	約18,500円/俵

○平均収量

コシヒカリ（慣行）	8.0俵/10a
いすみっこ	6.5俵/10a ←9俵、10俵とる人も多い

■環境を守り農業を未来につなぐために

ご清聴ありがとうございました